



第37回全国豊かな海づくり大会～福岡大会～
(式典 平成29年10月29日 福岡県宗像市)

CONTENTS

第37回全国豊かな海づくり大会について	2
増殖推進部 栽培養殖課	
平成29年度漁船漁業の安全対策に関する優良な取組に対する表彰について	6
漁政部 企画課	
回遊魚	7
漁政部長 森 健	
平成29年10月分のプレスリリース	8

第37回全国豊かな海づくり大会について

増殖推進部 栽培養殖課

去る10月29日（日）、第37回全国豊かな海づくり大会～福岡大会～が、「育もう 海 人 地域 みんなの未来」を大会テーマに、第37回全国豊かな海づくり大会福岡県実行委員会及び豊かな海づくり大会推進委員会の共催により、農林水産省、環境省の後援のもと福岡県宗像市で開催されました。

全国豊かな海づくり大会は、水産資源の維持培養と海や湖沼・河川的环境保全に対する意識の高揚を図るとともに、水産業に対する認識を深めるための国民的行事として、昭和56年から毎年開催されています。

大会前に台風22号が発生し、大会の開催が心配されていたなか迎えた大会当日は、台風22号の影響により、海上歓迎・放流行事や関連行事の一部が中止となっていました。式典会場である宗像市の宗像ユリックス本館イベントホールには、全国各地から約1,400人の水産関係者が集まりました。

式典は、天皇・皇后両陛下御臨席のもと行われ、大会冒頭に両陛下や参加者全員で、本年7月の九州北部豪雨災害で被害に遭われた人たちに対し黙とうを捧げたあと、大会旗入場に引き続き、佐藤福岡県漁業協同組合連合会代表理事会長の開会のことばで幕を開け、最初に大会会長である大島理森前衆議院議長が、「本年7月に『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界遺産に登録され、宗像の長い歴史と豊かな自然が世界に認知されることとなった。海を舞台に育まれた豊かな伝統と文化は、福岡県の大きな魅力。近年の水産業を取り巻く環境は厳しい状況にあるが、福岡県では、資源管理型漁業や栽培漁業を推進するとともに、漁場環境保全、水産物の消費拡大などの取組みが展開されており、我が国の水産業の活性化や自然環境の保全にとって大変意義深いもの。本大会にお集まりの皆様には、人々が自然の恵みを将来にわたり享受できる豊かな海の実現のため、今後ともご尽力いただきたい。」と、続いて、開催県の小川洋福岡県知事が、「本年7月、長年の悲願である『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』世界文化遺産の登録が実現し、その宗像市において本大会を開催できることは、二重の喜び。福岡県は自然環境に恵まれ、山々から栄養豊かな水が川を下り、三つの海に注いでいる。筑前海では、天然のマダイやトラフグ、有明海では大きな干満の差を利用して育てられるノリ、豊前海では大粒の養殖のカキ、筑後川では貴重な魚種であるエツなど、多種多様な海の幸に恵まれており、また、歴史的には、『遠の朝廷』と呼ばれた大宰府政庁、外国使節の迎賓館である『鴻臚館』が置かれるなど、古くから大陸との交流の窓口として発展をしてきた。この大会を契機として、海や河川、水源地域の環境保全の大切さというものを、未来を担う子どもたちにしっかりつないでいきたい。」と挨拶されました。

続いて、開催市の谷井博美宗像市長が、「本年7月に『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界遺産に登録され、4世紀後半以降、東アジアの対外交流の舞台であった宗像の地では、国の安泰と航海の安全を守る宗像三女神への信仰心とともに、人々は自然を守りながら、持続可能な社会を育んできた。今回の世界遺産登録と海づくり大会開催を契機に、今まで以上にしっかりと、自然と景観、文化と歴史を守り、次世代に引継いでいく覚悟。また、玄界灘に臨む宗像市は、県内有数の水揚げを誇る鐘崎漁港を有し、トラフグ、ヤリイカ、アナゴなど、天然の水産物の宝庫。ぜひ、この機会に宗像の海の幸をご賞味いただきたい。」と歓迎のことばを述べられました。

続いて、最初のプログラム、功績団体及び作文コンクール受賞者表彰へ移り、「栽培漁業部門」、「資源管理型漁業部門」及び「漁場・環境保全部門」の3部門でそれぞれ大会会長賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、水産庁長



第37回海づくり大会キャラクター
福岡県広報部長「エコトン」



式典行事に登壇された齋藤健農林水産大臣・長谷水産庁長官ほか

官賞を受賞された功績団体の代表者及び「小学校低学年の部」、「小学校高学年の部」、「中学校の部」、「高等学校の部」の4部門でそれぞれ大会会長賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、水産庁長官賞、福岡県知事賞を受賞された作文コンクール受賞者の代表者に賞状が授与されました。

功績団体表彰で大会会長賞の受賞団体を代表して賞状を受け取った福岡県の「福岡県ふぐ延縄漁業連絡協議会」は、操業方法の調整をはじめ資源管理の取組を積極的に推進し、他県においても資源の回復に向けた取組の強化への気運を高め、資源量・漁獲量の増加や地域漁業の経営安定に多大な貢献をしていることや、半世紀近いトラフグ種苗の放流実績があり、放流適地への大型種苗の大量放流の取組により、漁獲されたトラフグに占める放流魚の割合は1/6前後で推移しており、国の資源評価においても取組の有効性が示されていることが高く評価されました。

続いて、作文コンクール受賞者を代表して、小学校低学年の部で大会会長賞に選ばれた福岡県宗像市立東郷小学校2年生の野田光輝くんが、作文「ぼくのたいせつな海や川」を発表しました。作文は、自分の暮らしと深いつながりのある地域の海と川の生物に強い関心を持ち、海や川の水を守る具体的な活動を考えが綴られています。以下作文の一部をご紹介します。

『宗像の海には、釣川という大きな川が流れこんでいます。源流の水は、水道の水と違って、ピカピカのガラスのように透き通っていて、とてもおいしくて、甘く感じました。この水が海まで続いている、と思うと、大切にしなければいけない、と思いました。僕は、この源流から流れる川、釣川の横をよくサイクリングします。川で、シラサギやカモ、魚をよく見かけます。この川に沿って自転車で走ると、川の表面がキラキラ輝いていて、ダイヤモンドが流れているようできれいです。このきれいな川が海に続いていると思うと嬉しくなりました。僕は、大好きな宗像の海や川の水がいつまでもきれいでいるために、ゴミをポイ捨てせず家に持ち帰り、もしゴミが落ちていたら拾おう、と思いました。そして、水を汚してしまう合成洗剤を使わずに、水の中ですぐに分解できる石鹸を使うようにして、これからも海や川の水を大切にしていきたいと思います。』

そして、天皇・皇后両陛下より、未来を担う漁業後継者4人に、後日県内各地に放流される「クロアワビ」、「ノリ」、「アサリ」、「オイカワ」の稚魚等のお手渡しが行われました。

プログラムも終盤となり、続いて、海づくりメッセージへ移り、まず始めに、福岡海洋少年団から、『「僕たちは、手旗信号やロープワーク、カヌーや水泳など様々な訓練をしている。』、『訓練の前に近くの海岸でいつもゴミ拾いをする。』、『豊かな海づくりのためメバルの稚魚の放流をした。』活動報告と『これからも、僕たち、私たちを育ててくれる海を守っていきます。』とのメッセージが、続いて、有明海でノリ養殖を行う須崎孝義・直子さんご夫妻から、「これからも様々な活動を続け、子どもたちに、宝の海・有明海を引き継いでいくことを誓います。』、豊前海でカキ養殖を行う江口英利・由加里さんご夫妻から、『先輩方が築き上げたカキ養殖をさらに発展させ、様々な活動を通じて漁場や資源を守り、豊饒の海・豊前海を次の世代へと引き継いでいきます。』、筑前海でまき網漁・フグはえ縄漁に従事する権田幸祐・恵理子さんご夫妻から、「これからも、様々な取組を積極的に行い、豊かな筑前海の恵



功績団体受賞者・作文コンクール受賞者代表への表彰



最優秀作文の発表



天皇皇后両陛下からの稚魚等のお手渡し
(代表撮影)

みが次の世代に引き継がれていくよう、力を尽くします。」と、若手漁業者3組の決意を含めたメッセージが発表されました。

式典行事の最後には、岸宏豊かな海づくり大会推進委員会会長より「私達には、『豊かな海』というかけがえのない財産を、将来に引き継ぐ重要な責務がある。新たな決意を持って、水産資源の維持・管理と、環境・生態系の保全に努めていく。」などとする大会決議が読み上げられ、満場の拍手で採択されました。

その後、大会旗が小川洋福岡県知事の手から、次期開催県の尾崎正直高知県知事の手へとしっかりと手渡され、第37回全国豊かな海づくり大会～福岡大会～は幕を下ろしました。



福岡海洋少年団・若手漁業者による海づくりメッセージ



福岡県から高知県への大会旗引継ぎ

今回の大会の舞台となった福岡県は、日本海南西部に位置し、対馬暖流の影響を受ける筑前海、広大な干潟を有する有明海、瀬戸内海西部に位置し穏やかな内海である筑前海の3つの海に囲まれ、筑後川、遠賀川、矢部川などの河川沿いに広がる肥沃な平野から、筑紫山地、筑肥山地、耳納山地などの山地まで変化に富む地形を有し、これらの豊かな自然環境を活かして多様な農林水産業が展開され、全国に誇れる農林水産物が数多く生産されています。また、古代には「遠の朝廷」と呼ばれた太宰府政庁、外国使節の迎賓館である鴻臚館が置かれるなど、古くから海を介した国際交流の窓口として、様々な文化や産業が発展してきました。

大会を通じ、こうした福岡県の豊かな自然環境やその豊かな自然環境がもたらす美味しい魚、歴史ある伝統・文化など福岡の魅力とともに、豊かな海を育むことの大切さが全国に発信され、水産資源の保護・管理とつくり育てる漁業に対する理解が全国に広がる契機となったことでしょう。

第38回大会は、平成30年秋ごろに、第38回全国豊かな海づくり大会高知県実行委員会及び豊かな海づくり大会推進委員会の共催により「森・川・海 かがやく未来へ 水の旅」の大会テーマのもと、高知県高知市及び土佐市で開催される予定です。



第38回海づくり大会キャラクター
「くろしおくん」

第37回全国豊かな海づくり大会 大会決議

我が国は、四方を囲う海からの恵みによって、古より多様で優れた食文化を享受してきた。

ここ福岡県は、筑前海、有明海、豊前海の三つの海と、筑後川、矢部川などの内水面において多種多様な漁業が営まれ、地域産業の発展や伝統文化の継承に重要な役割を担ってきた。

私達には、「豊かな海」というかけがえのない財産を、将来に引き継ぐ重要な責務がある。

本年は、ここ福岡県において、「育もう 海 人 地域 みんなの未来」をテーマに、新たな決意を持って、水産資源の維持・管理と、環境・生態系の保全に努めていくことをここに決議する。

平成29年10月29日
第37回全国豊かな海づくり大会

第37回全国豊かな海づくり大会受賞者一覧

【功績団体】

<栽培漁業部門>

大会会長賞	福岡県	福岡有明海漁業協同組合連合会
農林水産大臣賞	三重県	公益財団法人三重県水産振興事業団
環境大臣賞	高知県	高知県内水面漁業協同組合連合会
水産庁長官賞	福島県	木戸川漁業協同組合

<資源管理型漁業部門>

大会会長賞	福岡県	福岡県ふぐ延縄漁業連絡協議会
農林水産大臣賞	滋賀県	滋賀県漁業協同組合連合会
環境大臣賞	神奈川県	横須賀市東部漁業協同組合
水産庁長官賞	徳島県	日和佐町漁業協同組合

<漁場・環境保全部門>

大会会長賞	沖縄県	伊江島海の会
農林水産大臣賞	熊本県	鏡町漁業協同組合力キ生産部会
環境大臣賞	福岡県	黄金川を守る会
水産庁長官賞	兵庫県	兵庫運河の自然を再生するプロジェクト

【作文コンクール】

<小学校低学年の部>

大会会長賞	野田 光輝	福岡県宗像市立東郷小学校 2年
農林水産大臣賞	白石 修也	福岡県宗像市立玄海東小学校 3年
環境大臣賞	伊賀崎 望	福岡県宗像市立自由ヶ丘南小学校 3年
水産庁長官賞	橋本 柚月	福岡県宗像市立地島小学校 3年
福岡県知事賞	松藤 光咲	福岡県宗像市立自由ヶ丘南小学校 3年

<小学校高学年の部>

大会会長賞	生野 凱翔	福岡県宗像市立赤間小学校 5年
農林水産大臣賞	中村 雪乃	福岡県宗像市立赤間西小学校 6年
環境大臣賞	和田 弥愛	福岡県宗像市立玄海東小学校 5年
水産庁長官賞	小野 伽音	福岡県福岡市立西高宮小学校 6年
福岡県知事賞	福岡ひなの	福岡県宗像市立東郷小学校 4年

<中学校の部>

大会会長賞	伊賀崎 淳	福岡県宗像市立自由ヶ丘中学校 1年
農林水産大臣賞	藤本 瑞希	福岡県立宗像中学校 1年
環境大臣賞	野中 杏夏	福岡県豊前市立八屋中学校 2年
水産庁長官賞	谷口 千秋	福岡県宗像市立日の里中学校 2年
福岡県知事賞	松本 愛梨	福岡県宗像市立日の里中学校 2年

<高等学校の部>

大会会長賞	吉田 稜	福岡県立宗像高等学校 1年
農林水産大臣賞	伊藤 真帆	福岡県立宗像高等学校 2年
環境大臣賞	坂上 真咲	福岡県立筑紫丘高等学校 3年
水産庁長官賞	仲子 陽香	福岡県立三池高等学校 2年
福岡県知事賞	稲光 遥夏	福岡県立香椎高等学校 1年



平成29年度漁船漁業の安全対策に関する優良な取組に対する表彰について

漁政部 企画課

毎年、漁船からの海中転落や衝突事故等により、多くの漁業者が命を落としており、このような事故を減らすため、安全対策の推進が求められているところです。

このようなことから、漁船の安全対策に関する優良な取組を行っている漁業関係団体を表彰し、実践事例を積極的に広報することにより、漁業者の安全に関する意識の向上と取組の推進を促すため昨年度より「漁船漁業の安全対策に関する優良な取組に対する表彰」を実施しています。

賞の種類としては、①漁業者の安全に関する取組を概ね3年以上継続し、かつ、漁船事故に伴う死者・行方不明者及び漁船事故を伴わない海中転落による死者・行方不明者が3年以上発生していない団体としてブロンズ賞、②ブロンズ賞受賞後引き続き2年以上にわたり同様の取組を継続している団体としてシルバー賞、③シルバー賞受賞後引き続き2年以上にわたり同様の取組を継続している団体としてゴールド賞の3部門があります。

今年度は、宗谷漁業協同組合、いとう漁業協同組合、高砂漁業協同組合の3団体がブロンズ賞を受賞されました。

表彰式は、「全国漁船安全操業推進月間」期間中の10月20日（金曜日）に水産庁長官室で開催され、長谷成人長官より各団体に対して感謝状の授与が行われました。

取組の概要については、表に記載されたとおりとなっております。

詳しくは下記のアドレスを御覧下さい。

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kikaku/171017.html>

漁船の事故は例年、これからの時期（秋から冬）に多く発生しています。これらの取組も参考に、ライフジャケットをしっかりと着用するなど、安全操業に努めていただくようお願いいたします。

【表彰式の様子】



【平成29年度漁船漁業の安全対策に関する優良な取組に対する表彰 受賞者】

	団体名（道県名） （組合長）	組 織 概 要	組織状況
1	宗谷漁業協同組合 （北海道） （組合長：奈良 満）	ライフジャケットの着用義務化や海難防止パレードへの積極的な参加等模範となる海難防止活動を展開し、漁船事故に伴う死者・行方不明者及び漁船事故を伴わない海中転落による死者・行方不明者が通算で5年10ヶ月発生していない。	 【海難防止パレード出発式の様子】
2	いとう漁業協同組合 （静岡県） （組合長：高田充朗）	海難防止講習会やライフジャケットを着用した落水訓練の実施等県内漁協の中で模範となる海難防止活動を実施し、漁船事故に伴う死者・行方不明者及び漁船事故を伴わない海中転落による死者・行方不明者が通算で7年発生していない。	 【落水訓練の様子】
3	高砂漁業協同組合 （兵庫県） （組合長：松本 力）	海難防止講習会による安全操業指導やライフジャケット着用の呼びかけ等を通じた着用推進活動を実施し、漁船事故に伴う死者・行方不明者及び漁船事故を伴わない海中転落による死者・行方不明者が通算で32年9ヶ月発生していない。	 【海難防止講習会の様子】

回 遊 魚

身勝手な消費者の独り言

元々料理は嫌いな方ではなかった。大学で一人暮らしを始めたときに一番に購入したのはガス炊飯器と鍋とフライパン。一口ガスコンロとオーブントースターを使って自炊を楽しんでいた。社会人になってからも、横川駅の駅弁の釜で米を炊くぐらいしかできなかった独身寮時代を除いては、休日にはちょくちょく自炊していたし、結婚して以降も、妻よりも先に帰宅した日には自分が夕食を作ることも少なくなかった。ことに最近は自分の方が帰宅が早い場合が多く、帰りに駅近くのスーパーマーケットに寄っては、「30%引き」「半額」のシールが貼られた食材や総菜を買い、帰宅後ささと調理をして夕食をとるというパターンがよくある。

とはいえ面倒くさい料理は作らない。というよりも作れない。調味料は全て目分量である。それでも無添加鶏ガラスープの素、魚醤、ごま油、ワサビ、キムチ等々で味付けをすれば、それなりのものができあがる。調理方法は、包丁で切る、フライパンで炒める、鍋で茹でる・煮る、魚焼きコンロで焼く、総菜をレンジでチンするの5種類のみ。もちろん魚をさばくことなどできない。漁政部長になってから魚食中心を心がけているが、自分でできるのは、ブリやタイ、カツオなどの柵を刺身にするか、サンマを丸ごと焼くか、サーモンの表面を少し焼いて塩昆布をのせる（「Tetsuya's@シドニー」風と勝手に呼んでいる）程度。魚がもっと手軽に食べられたら消費も伸びるだろうと実感している。

最近、土曜日に早起きして川崎北部卸売市場に通うようになった。この市場では7時過ぎから一般消費者も魚を買うことができる。ターレの邪魔をしないよう気をつけながら、ずらりと並んだト口箱と魚種・産地、値段が殴り書きされた札を見て回るのは楽しい。通い始めてまだあまりたっていないのだが、それでも季節に応じた魚の移り変わりは感じられる。カイワリ、キアラ、追駆の定置物、ホッキ貝など近所のスーパーでは見かけることのない魚介類を入手できるのも嬉しい。

ただし、処理・調理は妻にお任せである。魚をさばくのは妻も決して得意ではないようなのだが、とりあえず嬉々として調理してくれている。先日、恐ろしい顔をして長さが1mほどもあるダツという魚を買い、真ん中でぽんと輪切りにされたものを持ち帰った。見るのも調理するのも初めてだったにもかかわらず、ネット情報も駆使しながら何とかさばいたようで、刺身と塩焼きで堪能させてもらった。

自分で魚をさばけるようになったらとも思わないではないが、覚えるのはやはり面倒だ。でも市場まで来た以上、丸魚や殻付きの貝達を狙わない手はない・・・というわけで妻に頭が上がらない週末がしばらく続きそうだ。



漁政部長
森 健

発表年月日	発表事項名	担当課
H29.10.3	「日ロ漁業取締専門家会合」の開催について	国際課
H29.10.6	太平洋クロマグロ小型魚の漁獲に係る定置網の共同管理グループ構成道府県への操業自粛要請の発出について	漁業調整課
H29.10.6	「日ロ漁業取締専門家会合」の結果について	国際課
H29.10.6	「みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）第24回年次会合」の開催について	国際課
H29.10.10	「日パプアニューギニア漁業協議」の開催について	国際課
H29.10.10	「30年漁期TAC（漁獲可能量）設定に関する意見交換会（まあじ及びまいわし）」の開催及び参加者の募集について	管理課
H29.10.13	「南極の海洋生物資源の保存に関する委員会（CCAMLR）第36回 年次会合」の開催について	国際課
H29.10.13	「みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）第24回年次会合」の結果について	国際課
H29.10.13	国際原子力機関（IAEA）の海洋モニタリングの専門家の来日について	研究指導課
H29.10.13	「第4回トラフグ資源管理検討会議」の開催及び一般傍聴について	管理課
H29.10.13	「第34回瀬戸内海広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課 瀬戸内海漁業調整事務所
H29.10.13	「第27回太平洋広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課
H29.10.13	「第30回日本海・九州西広域漁業調整委員会」等の開催及び一般傍聴について	管理課
H29.10.16	「日パプアニューギニア漁業協議」の結果について	国際課
H29.10.17	平成29年度「漁船の安全対策に関する優良な取組に対する表彰」受賞者の決定及び表彰式の開催について	企画課
H29.10.20	「国内海面サーモン養殖推進会議」の開催及び参加者の募集について	栽培養殖課
H29.10.20	太平洋クロマグロ2016年及び2017年生まれの加入量水準情報（2017年10月）について	漁場資源課
H29.10.24	「第18回日中漁業共同委員会第2回準備会合」の開催について	国際課
H29.10.24	「日ソロモン漁業協議」の開催について	国際課
H29.10.27	齋藤農林水産大臣の国内出張について	栽培養殖課
H29.10.30	「第18回日中漁業共同委員会第2回準備会合」の結果について	国際課
H29.10.30	「南極の海洋生物資源の保存に関する委員会（CCAMLR）第36回 年次会合」の結果について	国際課
H29.10.30	「日ソロモン漁業協議」の結果について	国際課

編集後記 窓辺のカーテン

朝夕の冷え込みが強まり、鍋が美味しく感じる季節となりました。

比較的手軽に作ることができ、いろいろな具材や味付けが楽しめる鍋料理は幅広い層の皆さんに人気なのではないでしょうか（居酒屋のメニューにも鍋料理が目立つようになった気もします。）。

好みはいろいろあると思いますが、石狩鍋、あんこう鍋など「海の幸」を使った鍋料理もいいと思います。

ご家族や友人などと楽しく「海の幸」の鍋を囲んで、心と体を温めてみてはいかがでしょうか。

「漁政の窓」では、今後も皆様に水産庁施策についてわかりやすくお伝えできるよう努めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご意見やご質問がありましたら、以下にお願いいたします。

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111（内線6505）

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>

水産庁施策情報誌 漁政の窓

ご意見 ご質問はこちらへ ➡ URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>